科目名	建築構造力学Ⅱ						
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀 俊光		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	設計事務所にて 設計担当		
対象学科・学年	建築学科 1年						
授業概要	建物に必要な機能を備え、なおかつより良い空間をデザインするには建築構造の知識が不可欠である。この授業では、建築構造力学Ⅰで学習した構造力学の基礎に加えて、柱と梁、ラーメンやトラスのような建築構造物に加わる力の構成や算出方法を解説し、多くの演習を実施し身につける。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				応力の算出することができる。	
		○				3ヒンジラーメンの反力・応力を計算することができる。	
		○				トラスの軸力を図解法で算出することが出来る。	
		○				トラスの軸力を切断法で算出することが出来る。	
		○				トラスの軸力を節点法で算出することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	力学Ⅰの復習					
	2	片持ち梁の応力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	張出し梁の応力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	単純ラーメンの応力(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	単純ラーメンの応力(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	単純ラーメンの応力 ・ 確認試験1			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	7	片持ち梁系ラーメンの応力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	3ヒンジラーメン系の反力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	3ヒンジラーメン系の応力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	応力図すべての確認試験2			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	11	トラス1(図解法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	トラス2(切断法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	トラス3(節点法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	トラス ・ 確認試験3			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
15	力学Ⅱの総まとめ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				40%
	小テスト		◎				40%
	宿題・レポート		◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築施工Ⅱ						
科目名(英)	Building Construction Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	集路 正巳		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	建設会社にて 施工管理担当		
対象学科・学年	建築学科・1年						
授業概要	前期で学んだ施工Ⅰに続き、鉄骨工事で以降の建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を学ぶ。また、建物完成後の業務に関しても、概要を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○	○				鉄骨構造の生産及び施工方法を説明できる。	
	○	○				屋根、防水工事について、材料及び工法を説明できる。	
	○	○				外装仕上げ工事について、材料及び仕上げ工法を説明できる。	
	○	○				内装仕上げ工事について、材料及び仕上げ工法を説明できる。	
○	○				設備工事について、関連する機械や器具について、取り付け方法等説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	鉄骨工事(概要、工場製作①)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	鉄骨工事(工場製作②)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	鉄骨工事(工場製作③)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	鉄骨工事(工場製作④、現場施工①)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	鉄骨工事(現場施工②)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	鉄骨工事(現場施工③)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	鉄骨工事のまとめ、確認テスト①			授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと		
	8	屋根工事、防水・シーリング工事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	仕上工事の考え方、左官工事、タイル工事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	石工事、建具・ガラス工事、金属工事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	内装工事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	塗装・吹付工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	設備工事(電気、給排水・衛生、空調)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	設備工事(昇降機設備工事)、完成時・完成後の管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	確認テスト②、期末試験対策			授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				40%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築法規 II						
科目名(英)	Building regulations II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳田 美穂子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	建築士事務所にて 設計担当		
対象学科・学年	建築学科 1年						
授業概要	建築法規に関する知識を修得し、より専門的かつ実践的な建築計画に取り組める力を養う。建築法規 II では階段廊下・用途地域・建ぺい率・容積率などについて具体的基準について学ぶとともに、確認申請などについての手続き等についても学習する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					建築基準法上の階段や廊下の幅を、条文の表を使用して数値を求めることができる。	
	○	○				建築基準法の規定事項につき、当該手続き方法を説明することができる。	
	○	○				建築基準法上集団規定についてのルールを説明することができる。	
	○	○				建築基準法上単体規定についてのルールを説明することができる。	
	○					建築基準法上建築物の規模制限を、計算することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・建築関係法令集 法令編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	階段、廊下の幅				建築基準法施行令23条を一読	
	2	階段、廊下の幅②				建築基準法施行令24、25、26、27条を一読	
	3	確認申請などの手続き1				建築基準法6条を一読	
	4	確認申請などの手続き2				建築基準法6条、建築基準法施行規則1条の3を一読	
	5	構造と規模についての規定				建築基準法20条、施工令81条～88条を一読	
	6	用途地域1				建築基準法48条を一読	
	7	用途地域2				都市計画法9条を一読	
	8	道路概要				建築基準法42、43条を一読	
	9	敷地と道路の関係				建築基準法施行令144条の2を一読	
	10	建ぺい率1				建築基準法53条を一読	
	11	建ぺい率2				建築基準法53条3項を一読	
	12	容積率1				建築基準法52条を一読	
	13	容積率2(緩和)				建築基準法52条を一読	
	14	容積率3(緩和)				建築基準法施行令135条の16を一読	
15	確認問題				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築設計製図Ⅱ							
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅱ							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	峯元 幹雄			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○			
対象学科・学年	建築学科 1年							
授業概要	【鉄筋コンクリート・鉄骨造の製図】配置図の描き方 平面図の描き方 断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方 【住宅のフリープラン】各自で条件にあったフリープランを作成する							
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる		
	○	○				鉄筋コンクリート・鉄骨造の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。		
	○	○				製図の基本に則して鉄筋コンクリート・鉄骨造の配置図及び平面図を作図することができる。		
	○	○				製図の基本に則して鉄筋コンクリート・鉄骨造の断面図及び立面図を作図することができる。		
○	○				製図の基本に則して鉄筋コンクリート・鉄骨造の矩計図を作図することができる。			
テキスト・教材 参考図書	彰国社 定番建築製図入門							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1 2	鉄筋コンクリート住宅のトレース① 説明、平面図の作図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	3 4	鉄筋コンクリート住宅のトレース② 断面図の作図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	5 6	鉄筋コンクリート住宅のトレース③ 立面図の作図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	7 8	鉄筋コンクリート住宅のトレース④ 仕上げ・手直し				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	9 10	住宅フリープラン課題説明				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	11 12	図面製作① 敷地の読み取り方、コンセプト案の設定				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	13 14	図面製作② エスキス				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	15 16	図面製作③ 担当教員による図面チェック、課題提出				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	17 18	設計課題 RC造り課題説明 平面図の作図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	19 20	設計課題 立面図の作図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	21 22	設計課題 断面図の作図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	23 24	設計課題 短矩図の作図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	25 26	設計課題 担当教員による図面チェック、手直し				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	27 28	設計課題 手直し、仕上げ				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	29 30	設計課題 仕上げ、課題提出				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		課題提出		○		○		30%
		課題作品		○	○			60%
		提出状況		○		○		10%
	履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築計画Ⅲ						
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ						
単位数	2	時間数	30	担当者	今泉 清太		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築学科1年						
授業概要	<p>社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。</p> <p>前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。</p> <p>以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等も行う予定である</p>						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○		○	建築計画とは何かを説明できる		
		○		○	既存の建築計画を調査・研究している		
		○		○	これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス4-1生活圏とコミュニティー施設					
	2	4-2図書館 図書館の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	4-2図書館 公共図書館の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	4-2図書館 地域図書館の計画、近代建築史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	4-3美術館 美術館の計画・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	4-3美術館 美術館の計画・各室計画の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	4-4コミュニティーセンター、公民館				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。	
	8	4-5確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	5-1高齢社会と建築計画 5-2病院 病院の誕生				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	5-2病院 病院の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	5-2病院 各室の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	14	5-3確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	15	総括				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	
	定期試験	○	◎				
	小テスト	◎	◎				
	宿題・レポート	○	◎		◎		
履修上の注意	<p>まずテキストをしっかり読んで予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。</p>						

科目名	建築一般構造Ⅱ						
科目名(英)	Introduction of Building Construction II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀 俊光		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科 1年						
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				RC構造の特徴について説明することが出来る。	
	○	○				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)について説明することが出来る。	
		○				断面算定をすることが出来る。	
	○	○				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。	
○	○				トラス構造について説明することが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	鉄筋コンクリート構造(以下RC構造)とは					
	2	RC構造の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	梁・柱部材				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	構造におけるひび割れ、スラブ・耐震壁				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	断面算定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	その他のコンクリート系構造(壁式構造)(SRC構造)(プレストレストコンクリート構造)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	各部構造(陸屋根、床、階段、壁、天井、開口部)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	鉄骨構造の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	鋼材の種類と性質				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	各部材の設計				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	接合(高力ボルト接合)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	接合(溶接接合)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	柱脚、トラス構造				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	構造Ⅱの総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築材料Ⅱ								
科目名(英)	Building material Ⅱ								
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山 文彦				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	建築学科1年								
授業概要	建築材料のうち、構造材料である木材料、コンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				コンクリートの物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。			
	○	○				鋼材の物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築材料 市ヶ谷出版								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	コンクリートの構成材料の性質(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	コンクリートの構成材料の性質(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	コンクリートの構成材料の性質(3)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	コンクリートの調合設計				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	コンクリートの欠陥				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	コンクリートの耐久性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	セメントコンクリート製品				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	鉄類(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	鉄類(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	鉄類(3)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	鉄類(4)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	アルミニウムとその合金				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	金属の防食と防止				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	非鉄金属				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
15	まとめ				授業ノート、プリント等の確認				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				80%		
	小テスト	○	○				10%		
	宿題・レポート	○	○				10%		
	発表・作品								
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	JWCAD II						
科目名(英)	jwcad exercise						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉田麻美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科 1年						
授業概要	【鉄筋コンクリート・鉄骨造の製図】配置図の描き方 平面図の描き方 断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方 1階床伏図・2階床伏図・1階小屋伏図の描き方 【住宅のフリープラン】各自で条件にあったフリープランを作成する						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	目標						
	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○	○	○	覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。		
	○	○	○	○	用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールに従った正確な作図を行うことができる。		
	○	○	○	○	鉄筋コンクリート造の配置図・平面図・断面図・短矩図・床伏図を作成することができる。		
○	○	○	○	自ら用途に応じてJwCADの各種設定を行うことができる。			
○	○	○	○	レイヤの設定、かき分けができる。			
テキスト・教材 参考図書	初めての建築CAD:学芸出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1 2	鉄筋コンクリート住宅のトレース① 平面図			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	3 4	鉄筋コンクリート住宅のトレース② 断面図			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	5 6	鉄筋コンクリート住宅のトレース③ 立面図			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	7 8	鉄筋コンクリート住宅のトレース④ 仕上げ・手直し			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	9 10	住宅フリープラン課題説明 敷地の読み取り方、コンセプト案設定			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	11 12	作図課題 コンセプト案決定、エスキース			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	13 14	作図課題 図面チェックを受けながら、課題を進める			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	15 16	作図課題 図面チェックを受けながら、課題を進める、課題提出			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	17 18	作図課題 課題説明 (RC造)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	19 20	作図課題 図枠作成・レイヤ設定・配置図作成			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	21 22	作図課題 1階床伏図作成			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	23 24	作図課題 1階床伏図作成 図面チェック			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	25 26	作図課題 2階床伏図作成			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	27 28	作図課題 2階床伏図作成 図面チェック			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	29 30	作図課題 1階小屋伏図作成 印刷設定、提出			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題提出			○		○		30%
課題作品			○	○			60%
提出状況			○		○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	Photoshop Illustrator II						
科目名(英)	Photoshop Illustrator II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松本剛太		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科 1年						
授業概要	Illustratorの基本操作と、業界における重点を学ぶ それら基礎知識の浸透が目的						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				Illustratorの役割を理解する	
	○	○				Illustratorによる適切なレイアウト処理ができる	
	○	○				画像の基礎知識を理解している	
	○	○				Photoshopとの連携を意識した処理ができる	
テキスト・教材 参考図書	情報リテラシー Office2016						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	IllustratorとPhotoshopの基本 ベクトルとラスターの理解				Illustratorのインストール	
	2	図形や線を描く					
	3	オブジェクトの選択と基本的な変形					
	4	色と透明度の設定 CMYK版について					
	5	オブジェクトの編集と合成					
	6	線と文字の設定					
	7	その他有効活用すべき機能					
	8	紙面レイアウト演習1 文字の役割					
	9	紙面レイアウト演習2 段組の活用					
	10	PhotoshopとIllustratorの連携 画像の配置とその機能特性					
	11	Illustrator練習問題1 練習問題の解説					
	12	Illustrator練習問題2 練習問題の解答					
	13	Illustrator練習問題 回答と解説					
	14	Illustrator練習問題3 解説なしでの独力解答					
15	Illustrator練習問題3 解答と解説						
評価方法	習問題を小テストとして評価 2種実施、その提出により評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	◎	○				100%
履修上の注意							

科目名	建築図学B						
科目名(英)	ARCHITECTURAL PERSPECTIVE II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	石原達也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科1年						
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。オーナーの希望を具体化し、絵として表現する事により、より解りやすく表現する方法です。建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			2消点法を用いて基本的なパースが描ける	
			○			基本的なフリーハンドパースを描ける。	
		○	○			自ら設計した住宅の外観をパースにすることができる。	
		○	○			自ら設計した住宅の外観を着色することができる。	
	○	○			内観パースに着色し、カラーパースとして完成させる。		
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	外観2点法 基本					
	2	ビルのパース作成				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	3	ビルのパース作成				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	4	フリーハンドパースの作り方				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	5	2階建てアパートのパース作成				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	6	2階建てコーポのパース作成				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	7	陸屋根住宅のパース作成				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	8	切妻住宅のパース作成ー1				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	9	切妻住宅のパース作成ー2				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	10	自作の設計図面をパースにするー1				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	11	自作の設計図面をパースにするー2				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	12	自作の設計図面をパースにするー3				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	13	自作の設計図面をパースにするー4				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	14	着色1				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
15	着色2						
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○		○		30%
	課題作品		○	○			60%
	提出状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	ビジネスマナーⅡ						
科目名(英)	Business manner						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	津嘉山 佳子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	全学科対象・1学年						
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客対応、電話対応、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。						
授業形式	講義:	☐	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
					☐	サービス接客検定3	
	☐	☐				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。	
		☐				ビジネス文書について理解し、作成することができる。	
		☐				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する	
			☐			基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 ・早稲田教育出版 サービス接客検定3級 実問題集第39回～43回						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	検定試験について 受験級の選択・検定結果について					
	2	サービス接客検定対策① 演習および解説 第39回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	3	サービス接客検定対策② 演習および解説 第40回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	4	サービス接客検定対策③ 演習および解説 第41回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	5	サービス接客検定対策④ 演習および解説 第42回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	6	サービス接客検定対策⑤ 模擬試験				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	7	サービス接客検定対策⑥ 演習および解説 第43回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	8	サービス接客検定対策⑦ 演習および解説				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	9	来客対応1 接遇の意義と重要性を理解する 接遇の心構え				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	来客対応2 来客対応の流れ 来客対応の基本用語				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	来客対応3 名刺の受け方・渡し方・取扱い				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	来客対応4 ロールプレイング テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	電話対応1 電話の特性 電話話法のポイント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	電話対応2 電話のかけ方・受け方 演習プリント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	学習のまとめ ― 今期学んだことの復習、理解を深める				定期試験に備えて、復習をしておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	☐	☐				75%
	ロールプレイングテスト	☐	☐				15%
	態度・意欲・出席				☐	☐	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	就職実務 I B						
科目名(英)	Career Study 1B						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	各担任		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築学科 1年						
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に付け、習慣化する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる	
	○			○		基本的な面接対応ができる	
	○	○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある	
	○	○				企業研究の方法を知っている	
○	○				学校求人を利用するための条件を知っている		
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	企業講話 実践的な課題の提案 *メールアドレスの確認と管理					
	2	就職活動に関する心構え ものづくり系の仕事とは					
	3	就職活動に関する心構え 業界に必要なサービス精神					
	4	就職活動に関する心構え 必要なスキル					
	5	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション1					
	6	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション2					
	7	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション3					
	8	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション4					
	9	・履歴書の書き方 ・メールアドレスの管理					
	10	・履歴書の書き方 随時添削 ・メールアドレスの管理					
	11	・履歴書提出と添削					
	12	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策					
	13	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策					
	14	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策					
15	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策						
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	GCB II						
科目名(英)	Global Citizen Basic II						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	各担任		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	全学科対象・1学年						
授業概要	GCB I で学んだ「感謝の気持ちと他社への思いやり」を踏まえ、GCB II ではさらに「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢＝志」について学ぶことを確認します。「志とは何か」を学ぶ第一歩として、「夢、ビジョン、志の違いについて」および「志を立てるために大切な4つのこと」を学びます。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○		○		考えることの大切さを知る	
	○	○		○		自分の言葉で伝える大切さを知る	
		○		○		目標の大切さ、志の大切さを知る。	
		○		○		行動する大切さに気づく。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志 ～志とは何か。どうすれば志を立てることができるのか～					
	2	なぜ志を立てることが大切なのか ～世界の中の日本・日本の中の私①～					
	3	自己を知る ～私の過去・現在・未来～					
	4	伝える力を学ぶ(1) ～「個」としての伝える力を高める(自分の言葉で自分の思いと考えを伝える～					
	5	伝える力を学ぶ(2)「グループコミュニケーション」 ～勇気と思いやりをもって言葉のキャッチボールを～					
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる (言葉の力とプロ意識に学ぶ) ～プロとは～					
	7	自己の大切さと責任を自覚する ～世界の中の日本、日本の中の私②～					
	8	GCB II を受講して、私を感じたこと・気づいたこと・学んだこと					
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	数学ゼミB(選択)						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	吉田麻美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築学科 1年						
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				単項式と多項式の基本問題が解ける	
	○	○				文字式を利用した応用問題が解ける	
	○	○				連立方程式の基本問題が解ける	
	○	○				連立方程式の応用問題が解ける	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント						
授業	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【演習問題】 式の計算 単項式と多項式				解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。 また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。	
	2	【演習問題】 文字式の利用 偶数と奇数の和					
	3	【演習問題】 文字式の利用 等式の変形					
	4	【演習問題】 文字式の利用 図形の関係式の変形					
	5	【演習問題】 連立方程式 加減法と代入法を用いた解き方					
	6	【演習問題】 連立方程式 いろいろな連立方程式の解き方					
	7	【演習問題】 連立方程式 連立方程式の利用・身近な問題を解く					
	8	【演習問題】 総合復習 まとめ					
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	BIM 専攻 I B(選択)						
科目名(英)	Building Information Modeling I B						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	道脇 力		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築系共通						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○		○			材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。	
	○		○			レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。	
	○		○			自身で思い描いた形、空間をARCHICADを使って表現できる。	
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22 Magic Vol. 1 及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	プレゼンテーションボード作成「データ提出」			前回の復習を行うこと		
	2	ツールの応用、特殊ツールの紹介、質疑応答			前回の復習を行うこと		
	3	課題2: 作成モデルのリノベーション「コンセプト」			情報、資料収集を行うこと		
	4	課題2: 作成モデルのリノベーション「エスキス①」			情報、資料収集を行うこと		
	5	課題2: 作成モデルのリノベーション「エスキス②」			情報、資料収集を行うこと		
	6	課題2: 作成モデルのリノベーション「モデリング①」			タイムスケジュールの確認を行うこと		
	7	課題2: 作成モデルのリノベーション「モデリング②」			タイムスケジュールの確認を行うこと		
	8	課題2: 作成モデルのリノベーション「プレゼン資料提出」			必要提出資料の確認を行うこと		
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎		○		50%
	課題提出		◎		○		50%
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。						